

解答

一

問一 A イ B ア C ハ D オ

問二 交通手段の発達した時代

●自分が生まれ育った文化の影響を強く受けているという宿命

●なんらかの形で異文化と接触せざるをえないという宿命

●自分文化と異文化の狭間の中で生きていかざるを得ない（ということ）

日本文化には閉鎖的な面があり、異文化に対して非常にナイーブだと言われているが、積極的に異文化を意識し理解することは、互いに平和に強調して発展していくために大切であるから。

問六 ウ ャ

問七 ウ ャ

二

問一 ウ

問二 A ハードルで

B ① 意地悪 ② 苦手意識

③ ハードルは妙によそよそしく、気取った大人のように見えた記録会のために取り組んでいるハードルだが、ちゃんと練習して記録会でけりをつけ、またなんにも縛られずに、自分のために走りたいと考えている。

問四 緒方先生の言うままに練習しなければならず、自分で自由に練習できること。

問五 A 1000メートルが不調なために、出場種目をハードルに変えること。

B ハードルが競技種目から除かれたために、また種目を1000メートルにもどすこと。

問六 ウ、オ 緒方先生は、大会で記録を出すことや勝ち負けにこだわっているが、遠子は、ただ走ることが好きで、自分のために楽しく走りたいと考えている。

三

① 快方 ② 徒労 ③ 拝「む」 ④ 捨「つた」 ⑤ 売買

四

① と「る」 ② めんみつ ③ たいき ④ うむ ⑤ ひじう

五

① 鼻 ② 手 ③ 齒 ④ 田 ⑤ 骨

六

解説

問五 本文の最後の二段落で、「積極的に異文化を意識し発見して理解しよう」「互いに平和に強調して発展していくための基礎的な行ないとなるのではないでしょか」と述べられていることに着目します。

問七 すぐ前の部分で、「走るのって、こんなのじゃないと思う。大会が終われば、すぐにハードルをやめるつもりだった。ハードルをやめて、なんにも縛られずに、自分のために走りたい。」という遠子の気持ちが描写されています。